NIE実践報告

1．タイトル：自ら学ぶ生徒を育てるための新聞活用はどうあったらよいか

2．学校名

長野県諏訪郡富士見町立富士見中学校

3．実践者名（代表者名）

矢島和明

4．学年

３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間

6．単元（本時の学習課題）名

私たちの富士見町

7．目標(狙い)

富士見町の課題について、新聞記事を読んで自分が調べていきたいテーマを決め、調査しまとめる活動を通して、町の実情について理解を深め、町の発展の寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を高めていく。

8．評価の視点

今までの学習活動や経験をふまえながら、新聞記事の中なら、自分の調べたいテーマを決めだし、調査しまとめることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「私たちの南中学校」[社会：５時間]
「私たちの富士見町」[総合的な学習の時間：１８時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記事から富士見町の課題について考え、調査内容を決めだす（１時間）
②調査グループをつくり、担当を決める（２時間）
③調査計画を作成し、調査する(６時間）
④調査内容のまとめ（３時間）
⑤クラス内発表（１時間）
⑥発表の修正と全校発表の準備（３時間）
⑦全校発表会(１時間）
⑧学習活動の振り返り（１時間）
（留意点）
・社会科からの発展としての位置づけを大事にして、学習事項の振り返りを常に考える
・校外活動においてのルールやマナーを大事にする
・各自の課題解決を常に意識させる

11．児童・生徒の反応、感想・意見

意欲的な追究が見られた。「富士見町のことがわかってよかった」という多くの感想があるとともに「町の課題は自分たちが大人になったときに解決できるようにしていきたい」という意欲もみられた。

12．成果と課題

・社会科の調査が基盤となってスタートした単元であるため、既習事項をもとに各自がこだわりをもって自分の課題解決に向かうことができた。
・新聞記事は教師が用意しにくい資料が手に入るという点で、学習に大変有効である。
・学校統合初年度のため、総合的な学習の時間のスタートが遅かった。十分な追究とまではいかなかった。